

いんたびゆー
INTERVIEW

本社機能 札幌移転5年目

安瀾 聖司さん

アクサ生命社長



外資系生命保険会社のアクサ生命保険(東京)が、東京にある本社機能の一部を札幌に移して5年目を迎えた。札幌市は東日本大震災以降、道外企業の本社機能移転を呼び掛けており、同社はその先駆けとなった。安瀾聖司社長(63)に、移転の意義や感想、今後の戦略などを聞いた。

(聞き手・堀田昭二)

—2014年11月の札幌本社設立時、十分な人材を確保できるかが課題でした。実際はどうでしたか。

「札幌は大学が多いこともあり、ITなどの技術者を含

めて予想していたよりずっと多くの人材が集まっています。札幌の正社員270人のうち8割が現地採用です。会社自体が拡大しており、今後も顧客対応にあたる社員を中心に増やしていきます」

—本社機能の一部移転は災害発生時に事業の継続性を高める狙いでした。

「昨年の胆振東部地震と全域停電では東京本社と連携して顧客や社員の被災状況確認を進め、5日後には札幌本社が完全復旧しました。複数拠点があったからこそ迅速に復旧できたと思います。また、

やすぶち・せいじ 徳島県出身。早大卒業後、1979年三菱商事に入社し貿易金融などを担当。GEキャピタル・ジャパン社長、ピザ・ワールドワイド・ジャパン社長などを経て4月にアクサ生命保険に入社し社長就任。

全域停電後 迅速に復旧

札幌に拠点を置いたことで道内の顧客に好意的に受け止めてもらえるようになり、知名度が上がったことで仕事がいやしくなりました。人材採用面で広がりも出ました」

—生命保険市場の今後の見通しは。

「当面は緩やかに伸びていくでしょう。近年の長寿寿命化や高齢化に伴って消費者の健康への関心が高まり、医療保険の加入は伸びています。万一の時に家族などに資産を残すという目的だけでなく、自分が長生きした時のために備えて貯蓄性の高い保険商品などを求める傾向も以前に比べて強まっています」

—道内では、経済団体などが従業員らの健康管理を重

視する「健康経営」の普及に力を入れています。

「主な顧客である中小企業は、経営者や従業員が病気になる場合、事業を継続できなくなる可能性があります。社員の健康を支援することは会社の価値を高め、人材を確保しやすくする効果もあります。道内は全国的にも高齢化率や喫煙率が高く、健康経営を進める意義は大きい。その上でリスクに備えるための保険を提案していきます」

—個人客向けに今後力を入れないことは。

「結婚や家の購入といった人生の節目に、その後の生活設計のシミュレーションや助言をするライフプランニングを積極的に展開していきます。すぐには契約につながらないかもしれませんが、助言を通じ、顧客と信頼関係を構築することを第一に考えていきたいと思っています」